



紫陽花の色が美しく映える季節になりました。今月号も最新のトピックスをお届けします。

国内動向

① 職場のあんぜんサイト「化学物質による災害事例」の更新(厚生労働省)

職場のあんぜんサイトに労働災害事例(20件)が追加された。

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/saigajirei.htm>

② GHS 分類結果の公表(NITE)

平成29年度に厚生労働省、環境省の事業で実施されたGHS分類結果が製品評価技術基盤機構(NITE)のホームページより公開された。

http://www.safe.nite.go.jp/ghs/h29_list.html

③ 「毒物及び劇物指定令の一部を改正する政令(案)」に関する意見募集(厚生労働省)

新たな毒物及び劇物の指定等を行う政令(案)への意見募集が行われている。意見募集の締切は6月15日、公布予定日は6月下旬、施行期日は7月1日とされている。

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495180032&Mode=0>

海外動向

① 危険有害性を有する混合物の届出用フォーマットを公表(ECHA)

CLP規則に基づく、危険有害混合物のPoison Centres Notification(PCN)(中毒センターへの届出)用のフォーマットが公表された。

<https://poisoncentres.echa.europa.eu/poison-centres-notification-format>

② REACH 消費者及びプロ用製品中のドデカメチルシクロヘキサシロキサン(D6)の制限提案に向けた情報提供を呼びかけ(ECHA)

ECHAは既に提案意思を表明しているオクタメチルシクロテトラシロキサン(D4)、デカメチルシクロペンタシロキサン(D5)の消費者及びプロ用製品への使用制限(洗い流す化粧品への使用については制限リスト収載済み)の制限提案の範囲にドデカメチルシクロヘキサシロキサン(D6)を加え、新たにD6に関する情報提供を呼びかけている。情報提供の期間は5月2日～6月18日。

<https://echa.europa.eu/calls-for-comments-and-evidence/-/substance-rev/19601/term>

③ 感熱紙中のBPA及び代替物に関する市場調査報告書を公表(ECHA)

ECHAは標記の調査報告書を公表した。調査の結果、感熱紙に顔色剤として使用されるビスフェノールS(BPS)が2016年から2017年で2倍に増加したことを報告した。ECHAリスク評価委員会(RAC)はBPSについてビスフェノールA(BPA)(EUでは2020年1月以降、感熱紙への使用を禁止)と同様の有害影響の懸念を指摘しており、欧州委員会からの要請に従い引き続き調査が続けられる。

<https://echa.europa.eu/-/bpa-being-replaced-by-bps-in-thermal-paper-echa-survey-finds>

④ 米国 GHS改訂7版に対応したHCS改訂を計画(OSHA、DOL)

米国労働安全衛生局(OSHA)、運輸省(DOT)等の関係機関は、2012年危険有害性周知基準(HCS2012)(GHS改訂3版対応)を最新のGHS改訂7版に対応して改訂予定。2019年2月の改訂を計画している。

<https://www.reginfo.gov/public/do/eAgendaViewRule?pubId=201804&RIN=1218-AC93>

特集:ヒト健康影響⑤ 遺伝毒性1



「変異原性」や「変異原性物質」という用語は、細胞における突然変異の発生を増加させる性質や物質を指す用語であり、「突然変異」とは、細胞内遺伝物質(DNA)の量又は構造の恒久的変化として定義されます。「遺伝毒性」や「遺伝毒性物質」という用語は、DNAの構造や含まれる遺伝情報、DNAの分離を変化させる作用や物質などに用いられます。国連GHSでは「変異原性試験」と「遺伝毒性試験」を使い分けており、「変異原性試験」は遺伝子突然変異、染色体の構造あるいは数的異常を指標としたものが該当し、「遺伝毒性試験」はそれら以外の、例えば、DNA損傷/修復を指標としたものが該当するものとして区別しています。

GHS分類では、「変異原性」や「遺伝毒性」ではなく、「生殖細胞変異原性」という用語を使用しています。それは、ヒトにおいて次世代に受け継がれる可能性のある突然変異、すなわち、生殖細胞に対する変異原性の分類を目的にしているためです。そのため、*in vitro*での変異原性/遺伝毒性試験のみならず、*in vivo*での哺乳類体細胞や生殖細胞を用いた試験もこの有害性クラスの中で分類する際に考慮されます。

GHS分類に関するJIS Z7252及びGHSにおける分類基準では、以下に示す同一の区分を採用しています。

- 区分1：ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発することが知られている化学物質、又は経世代突然変異を誘発するとみなされる化学物質
 - 区分1A：ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発することが知られている化学物質
 - 区分1B：ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発するとみなされる化学物質
- 区分2：ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発する可能性がある化学物質

政府向けガイダンスでは、ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発する可能性がないとみなされる場合は、上記の区分が付かず、分類結果は「分類できない」と記載されます。この区分は、以前の区分で「区分外」と判定されていたものであり、注意が必要です。また、根拠データが乏しい場合や、データがない場合にも「分類できない」と記載されます。

お知らせ

○論文掲載

英文誌 *Journal of Applied Toxicology* に、本機構の前田職員らによる論文「New approach to predict photoallergic potentials of chemicals based on murine local lymph node assay」が掲載されました。LLNAを応用した新たな光感作性試験法に関する論文です。 <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/pdf/10.1002/jat.3643>

○セミナー「これから対応する企業のためのICH M7 変異原性不純物対応とガイドライン徹底解説」

6月29日(金)にきゅりあん(東京都品川区)において開催されるセミナーで本機構の菊野職員及び林職員が講師を務めます。 <https://science-t.com/st/cont/id/29051>



ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

CERI

一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F
安全性評価技術研究所 研究第二部
Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)
URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@cerij.jp